男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 人力農具、鍬類	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品−実物 ○ 製品−レプリカ ○ 製品−模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
☒ 人力用具 ☒ 手押式 ☒ 耕耘用 ☐ 調製用
☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☒ 施肥播種 ☐ 施設類
☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☒ 管理用 ☐ 機素
☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☒ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.
台帳No. D009
相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明
製造市・国名
製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

鍬類は、人による振上げや横振り動作で与えられる運動力を利用して刃床部を地中に貫入し、人の引上げ動作によって耕起・掘取り・溝開き等をする単純な構造でも多様な用途に使う人力具である。鍬は、永年の利用によってより効果的に作業できるように柄の太さ、柄角θや刃床部の形状が変った。普通鍬ではθの大きい順に打鍬(堅牢で85＞θ＞60度の耕起・土工用、立姿前進耕)、打引鍬(打・引鍬の中庸で多用途型)、引鍬(柄長く軽量で35＞θ＞40度の作溝・畦立て・中耕除草・溝さらえ用、斜後退耕)に発展したし、関連図4に示すように耕起時に貫入し易いように3〜4本の爪状に改良された備中鍬(耕起・畦崩し・芋掘り用)、金鍬で土の付着が少ないように窓を開けた窓鍬(北海道で生まれた島田鍬を含む)、根切りや強固な土地を起す唐鍬や鶴嘴、軽量で刃幅の広い草削り・万能などがある。

利用経過収集記録意義等

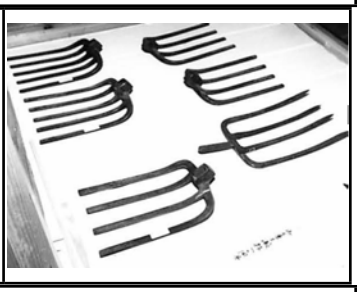
2014年調査時未確認

仕様書_解説等

農場で使った多様な鍬類が多数並んでいる

右に全体図

外観特色関連図等



資料の所在: 写真のみ

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編